

日本での「帰宅」の旅

外交学院学生代表

見学日時：2019年12月2日（月） 14:05-15:35

見学場所：中華人民共和国駐日本国大使館

見学概要

12月2日の午後、訪日団一行は松本楼での昼食を終えた後、中華人民共和国駐日本国大使館へと向かい、政治部の聶佳参事官の出迎えを受けた。大使館での活動内容は、記念撮影、聶佳参事官からの歓迎の挨拶、程海波団長からの挨拶、各学校の代表学生からの本活動における感想等の紹介、質疑応答などで、全体を通して賑やかな雰囲気の中で行われた。

なぜですか？

(1) 大使館への訪問において私たちはユニークな事実について知った。それは外国に駐在する大使館の所在地は実のところ自国の領土に属するという点で、つまり私たちは暫しの帰国をしたということである。「同郷の皆さん」のおもてなしに私たちの心はとても温かくなり、皆はこの場所においてさながら自分の居場所を見つけたかのように、この数日間の日本での体験や感想について自国語で楽しく交流をしていた。



(2) 各学校の代表学生の発言内容を通じて私たちは、皆専攻は異なるが、いずれも中日友好事業に自分なりの貢献をすることを望んでいることを知った。例えば中国伝媒大学の学生はショートフィルムやショートムービーといった方式で中国について外国へ紹介する、北京語言大学の学生は翻訳や海外の友人との直接交流といった方式で彼らの中国への理解を深めることを望んでいた。学生らのこうした抱負について知った私は、目標実現のために今後努力を続ける自信と決心がより強まった。

感想

日本の人々の中国への理解の度合は概ね中国の人々の日本への理解の度合には及ばないが、それには多方面の原因が存在する。例えば、近年中国の人々は海外旅行によって世界を知ることを好む傾向にあるが、日本の人々の場合は海外旅行に熱中する時期はすでに過ぎており、国内に居ることを好む傾向にある。それ以外にも中国と外国のウェブサイトとの切り離しにより、自国文化の速やかなまた便利な海外への発信ができない等である。こうした局面を変え、より多くの日本の人々が中国への興味を持ち、そして中国を理解するようになるためには、多方面の協力が必要となる。そしてその中でも非常に重要なのは民間外交である。日本語を専攻する私たちとしてできるのは、学んだ日本語をベースとして如何に中国を紹介するかを考えることである。このためには私たち自身が中国国内の様々な面について深い理解と認識を持ち、さらに日本の人々との触れ合いの機会を活かし、自信を持って流暢な言葉で中国の新たな時代について伝え、また紹介することが求められ、これはまた新たな時代の中国外交の観念とも一致するものである。この点については正に聶佳参事官から、中日友好への貢献手段は多種多様であり、皆はそれぞれの専門知識を活かして異なる面から努力をすれば良いため、皆は中日友好事業を自身の専門業務としなければならないというわけではないとお話があった。

大使館での1時間半はわずかな時間ではあったものの、他の活動とは大きく異なり挨拶や水臭さはほぼなく、皆は

この1時間半において大いに語り合うことができた。また皆は日本の大学生と香港問題や高速鉄道のオリジナリティ問題について討論した際の感想等、鋭い問題についても討論を行い、聶佳参事官からもまた自身の業務経験を踏まえた回答を頂いた。現代の中国の青年である私たちにとって最も重要なのは、問題に対してははっきりとした認識と正しい理解を持つと同時に、私たちの姿を通じて中日交流、ひいてはすべての対外交流のプロセスにおいて真実の、また完全な中国を示すことである。私たちは大きな責任を担っており、大使館は常に海外における私たちの確かな後ろ盾そして温かな拠り所である。

